

製品名: Pin1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87587**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:18 kDa; Observed MW:18 kDa

抗原情報

遺伝子名	Pin1
別名	DOD; UBL5
遺伝子 ID	5300
SwissProt ID	Q13526
免疫原	ヒト Pin1 の合成ペプチド

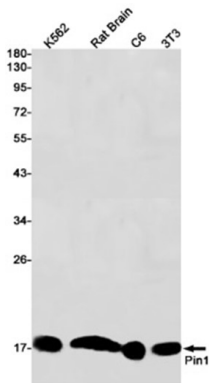
背景

ペプチジルプロリルシス / トランスイソメラーゼ (PPIase) は、ペプチジルプロリルペプチド結合のシス / トランス異性を触媒す

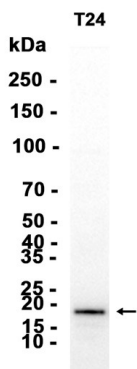
る。この遺伝子は PPlase の 1 つをコードしており、リン酸化セリン / スレオニンプロリンモチーフに特異的に結合し、基質のリン酸化後の構造を触媒的に制御する。この PPlase によって触媒される構造制御は、細胞増殖、遺伝毒性およびその他のストレス応答、免疫応答、多能性の誘導と維持、生殖細胞の発生、神経分化、そして生存の制御に関与する重要なタンパク質に大きな影響を与える。この酵素は、アルツハイマー病や多くの癌の病因においても重要な役割を果たしている。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 6 月]

研究分野

画像データ



Pin1 抗体 (1:1000 希釈) を使用した K562、ラット脳、C6、3T3 細胞溶解物中の Pin1 のウエスタンブロット検出。



AMRe87587 を 1:1000 で使用した T24 細胞抽出物のウエスタン ブロット分析。